

平成 21 年 5 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006年度～2009年度

課題番号：18520134

研究課題名（和文） 「近代文学」派と近現代日本文学研究の方法

研究課題名（英文） Research Method on “Modern Literature” School and Modern and Post-modern Japanese Literature

研究代表者

小嶋 知善 (KOJIMA TOMOYOSHI)

大正大学・文学部表現文化学科・教授

研究者番号：00365850

研究分野：日本近現代文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：（1）戦後文学（2）「近代文学」派（3）解釈学的批評（4）文学研究の成立

1. 研究計画の概要

（1）本研究は、大学における近現代日本文学研究の方法の確立に重要な役割を果たした「近代文学」派に着目し、近現代日本文学研究の問題点を明らかにしようとするものである。雑誌創刊同人七人のうち埴谷雄高を除く六名は、後に大学教員として近代文学を講じた。雑誌「近代文学」で戦後の文壇をリードした彼らは、近現代文学が大学で学問として本格的に講じられるようになる段階で重要な役割を担った。彼らが開拓した研究スタイルや関心の領域は、現在の近現代文学の研究の方法に少なからず影響を与えている。彼らのアカデミックでの活動の精査は、現在に至る近現代文学日本文学の研究スタイルの究明につながると考えられる。

（2）本研究は、初年度以来「近代文学」派の評論や研究を、次世代の研究者がどのように評価しているかという視点を取り入れ研究を行っている。その方法として、近現代文学の研究者に直接インタビューをする方法を取っている。

2. 研究の進捗状況

（1）「近代文学」派の人たちの大学を舞台にした研究方法を探っていく段階で、大正大学で長らく教鞭を取っていた久保田正文に焦点を当てて、その研究方法や業績を探求し

た。その結果、久保田の業績を網羅的にまとめた著作集を刊行するめどが立った。70頁ほどの著作目録、20頁ほどの解題を付けた浩瀚な著作となるはずである。（平成21年6月刊行予定）。

（2）初年度から近現代文学研究者に対して、文学研究の方法をどのように確立されてきたかについてインタビューを行っている。平成18年度今西幹一氏・神谷忠孝氏、平成19年度勝又浩氏、平成20年度佐藤勝氏にお話を伺った。これらは録音を行っており、活字化する方針である。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

（理由）「近代文学」派の人たちが大学で講じていた時には、シラバスや講義概要が整備されておらず、資料を集め難かったことがある。かろうじて、「近代文学」派であり、大学で文学を講じた久保田正文の著作選を編集し、彼の業績を概括できる解題・解説を執筆した。これにより久保田の仕事はほぼ完璧に領略出来た。しかし、それは「近代文学」派の大学教員の一典型をまとめたものである。他の「近代文学」派の大学教員の仕事の検証ということについては遅れている。

本研究は、「近代文学」派の評論や研究を、次世代の研究者がどのように評価しているかという視点に基づいたインタビューを続けている。その段階で、「近代文学」派の大学教員は、文学研究者としてよりも教育者としてどのような役割を果たしたかという観点も必要なこと分かった。その分析は、イン

タビューをまとめる段階で、果たしたい。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 研究分担者と協力し、これまで行ったインタビューをまとめ、近現代日本文学研究の方法確立に対する研究者たちの取組みの分析を行いたい。

(2) 「近代文学」派の大学教員として仕事については、紀要などを主とした学術誌の調査を継続して行ない、検証したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

特になし。